雅言解

一

ち　一丁
ぬ　三丁
を　四丁
わ　六丁
か　十丁
よ　廿五丁
た　三十丁
ゝ　卅九丁

ホ 2
4434
2

ホ2
4434
2
へ利4
1520
2
ホ2
4434
2

雅言解 巻之二

東京 鈴木重嶺 纂

知の部

ちはら
○茅原ナリ。茅生トモヨメリ。
○茅一名白羽草。和名抄

ちりの芽
○塵ノゴトク數ナラヌ身ト云フ

羽 楸 ちりつみくれば ちりつみくれば の意なり

六 ちりさぶの ちりさぶの ちりさぶの

古長 ちりふはげ ちりふはげ につるゆるをとりつ

六 風ちりくよ ちりくよ ちりくよ

ちりうひ

○ヨリチガヒ（散疎）ナリ

ちり代まぐひ

○チルマギレノ意。マガヒハ乱レナリ。

ちりおぐひ

○前ニ同

ちり代まろひ

○カタノマヨヒナドノ

六 つもりて山とまろかれどうくまたつもれちるひぐるこゝハ

古 さくらをちりかひくれ老らくのこんといつらるさかりハ

万葉 ちりのちりくれいつれる道と秋のゆくらん

古 秋萩のちりのまぐひまぐひたてたくれる萩のあるのはるけき

古 世甲くこゝひみちぬぐ一梅むちりのまぐひふいくぢちまれく

万 うめのむちりまぐひくるとうぐひまふらくひすあくもまるまみて

万葉 かへくるさのゝ社一ねさくをむちりのまぐひふゝふいくりつ

マヨヒニテ。チリノ乱レト云ホドノ意ナリ。

ちりふぐじいる

○和光同塵ノ意

○皇國学スルトモガラハ。カヤウノ意ハヨムベカラズ。

ちりぐもり

○塵ホドニテ。少シバカリナリ。

ちりぐ

○メイ〳〵ワカレ〳〵ノ意

ちりぐるま

○モノヲツミテ挽ク車

徒千 ちりまるちりくるくるどもれ座のきくりけちりのまぐひふ

万葉 ちりぬこくづもまそびてくまま社萩をは山ゆる光ちりれ

古 ちりくるも萩こまやりる沖ちれバ月のさちりもるふくき

松東玄アカ ちりりん萩ばりだふまちのゞれけれる庵のまくくるも

六 入りまれくる紀ぞちれ行一きむくちれおのゞちゞくちりぬこゝだ

秋六 おちゞ世ようゃれあひても恨のあのちりゞくちんとそ紀さ

ろ 意ゞくまをちりくる車ま七くくる法つくてくくわゞくろかく

ナリ

ちえ

○千枝ナリ。補ニヨメリ。

ちきやぶる

カミ　ヒト　ウヂ

○イチハヤブル神ト云フ語ノイヲ省ケルナリ。神代紀ニ、残賊強暴ヲ「チハヤブル」トヨマセタリ。何ニテモタケク オソロシキ者ニ冠ラスルナリ。

ちゝのみち

チヽノミコト

冠辞

ゆきもちかゝ　ゆきもちかゝ　車もひきくしむそぢあまりのあがきつむて

ちはやふる　神あひとのあひだ　ちはやふるうぢの枝ゆあれをしらねば思ふもめへぬれば

さ月ちばちのごの杜のかゝぎんあつゝふる杜のうずごゝあき

あまくもの　人をあどれとまつろはぬ國をゝさもと上下畧

ちゝの字のちゝめくゝちとはゝそばのちゝのうちて上下畧

○相模ニテ銀杏ヲチエウヲ「チヽノ木」ト云ヨシ。銀杏ノ古樹ハ乳房ナス。フクレサガレルモノナリ。是ヲチヽノ木ト云ヘルハ古語ノ残レルナルベシト加茂翁ノ考ニ云ハレタレド、乳ヲ「チヽ」ト云ハ今ノ俗言ニテ、此説アタラズ。六人部是香カ著ハセル鶯能玉串ニ知智ノ実ハ松球(マツフタ)ナルベシソハ今モ普ク「チヽグリ」トモ「チヽリ」トモ「チヽリ」トモ云ヘリ云々トアリ。渡辺明古。此説ハ網代弘訓ノ説ナリト。同時ノ人ナレバ、暗合ナルベシ。

ちりひぢ

○塵泥ヽ。此歌ニテハ、塵泥ノ如クニシテ人数ニモ入ラヌト云意。

ぬ

○寝ナリ。イヌニ同。

ぬるし

○温ヲ訓ム。水ニモ風ニモ云

奴の部

ちゝのゝ　我が子ふあひとづんいすぐかゝ　さ

つれゝちき人をやいくちゝのおくとはあぐきぬたはちのづん

たのみくゝ人をあれど杜のうはゆあぐきこちゝ杜さま

いゝへの　ゆ　ゆ　ぬるたれどもとのこゝろをちるくづくむ

ちゝあゝふきくゆるたれどもちそぎて梅はさや咲きさう

ぬうづく

○額突クナリ。額ヲ地ニ突キ拝スルヲ云。

ぬれぎぬ

○ナキ名ヲ負フヲ云。又ヌレゴロモモヨメリ。

ぬかハ

○尊和名沼奈波ト云。俗ニジュンサイ。

ぬさ

○幣ヲヨム。旅行スル人ノ道祖神ニ手向ルナリ。又神宮ニ奉ル幣束ヲモ云ヘリ。

あひろうぬ人をあり〳〵大ちのがきのもりへよぬうづくぐぐ〳〵

ふくかゝぬ人のきそんぬれぎぬハありひとけづかうかゝきちん

すそくふぐさくくふこをぬれ衣よきまるぐりうのあゝぐみりる

わすゝくいかさめてちがれぬれぐろもさてもわすぐきかきくろ

かくれぬ乃〳〵くくうあつねぬふいのねぬ名ふくじくれいくひそ

年毎ちちはくれぐもびるふあくぬちくぐ名ぐぐみりろ乳

ふくびハぬきもちあつびまるかくちぐのゝき神のまたくし

すくうすくゝたちくゆゝ山ちいふ衣ぬきとちうすぐひくれ

ぬき

○織物ノ横ノ糸ヲヌキ(緯)ト云ヒ、縦ノ糸ヲタテ(経)ト云。

ぬすむ

○盗ヲヨム。ヒソカニ他人ノ物ヲ取ルナリ。

まのきる素のく衣ぬきを子てく山かぜくくうみぐるべくたれ

ふのくて素のぬき衣よわくゝ山のゝきのもれバうちる

ぬのの毛ハかすくくるくあびくもかをぐふぬすあちの山うぜ

空のもをぬすくくさくうのびハさくでやくくくがりくん

冠辞

ぬばゞ玉

夜 クロ

○万葉ニ、射干玉(ヌバタマ)トカケリ。射干ハ和名抄ニ一名烏扇トアリテ、俗ニ云「ヒアフギ」ナリ。此実黒キ玉ノ如クニシテ、野ニ生スルモノ故、野真玉(ヌバタマ)ト云ナルベシ。烏玉黒玉ナド書シハ、其実ノ黒キ玉ニ似タレバ、推テ此字ヲ用ヰタルナルベシト加茂翁ノ考ニ

遠の部

ヲろれをろ

○山鶏ノ尾ノ中ニ長キヲ「ポツヲ」ト云ヲロノ口ハ助語ナリ。山鳥ノハツ尾トバカリモイヘリ。モロコシ魏國ニテ山鶏ヲ飼フテ鳴カザリシニ、鏡ヲカケ置タレバ鳴キタリト云故事アリ。

ヲとつひ

○前々日ヲ云。今モシカリ。万葉ニ前日トカケリ。

ヲとゝし

○前々年ヲ云。今モシカリ。万葉ニ前年トカケリ。

ヲち

○遠キヲ云

ヲちこち

○遠近。又彼此ヲ謂ム。

ヲちかへり

○サマゞしノ説アレドウケガヒガタシ。宣長云。ヲチトハ初ノ方ヘカヘルナリト。万葉ニクスリハムトモマタフチメヤモ。又ヲケルナデシコ云々イヤヲチニサケトアリ。皆初ヘカヘルノ意ナリトゾ。

ヲぞさく

時延ニテ。時ナガクツ

マク意ニ、カゴー抄ニ、コヽデコソト訳シタリ。此歌ドモニハヨク當レリ。

を北へえくらす

○クタスハ為朽ナリ。斧ノ柄ノ朽ルハ、晋ノ王仙質ガ故事ナリ。

を斧

ありけるてバ斧のをりへ人ぞくしうハ苔のむすまで社ちられ

を山田の

オドロカシ

○オドロカシハ、猪鹿ナドヲオドス類小五ノ類ナリ。故ニ小山田ノトヽカケタリ。

を冠

冠辞

を山田乃おどろかしみるごとりをとひこぶるふにがし実ろ孔

を斧

斧行のえいこのかとそやれれやしまを記こぬ桜ちりせぞ

を長

長くもわてさあてと云きこころ代ゆづちやしバやきれん

を和

和の部

わをぶ

わをぶしやくふかあふふちくどだふ分のくきと記ハきりやりする

を山田の

山田のをしまかりしろふいふぞ色づくはきのひしさめ

を絲

絲いとやかしやす

を枝

枝のこのもそづきぬやさ母のを

を長

長くめくぐをぐふれるうみをちんもつのうふ 上下累

を衣

衣をうくぬすのとぞやひうげのかづしろふハろるそも

を地

地はをくめるぐ神ろうそそくどくそ衣をうのうふそそ苔ざりルロ

ノイヲハブキタルナリ。神夏ノ服ニテ、山藍ニテスレルモノトゾ。

を枝

○ヲハ發語ナリ。「イキヲ」相通ニテ「シキ」トイフ。

○稜米和名字藻之称

を山田の

オドロカシ

○オドロカシハ、猪鹿ナドヲオドス類小五ノ類ナリ。故ニ小山田ノトヽカケタリ。

冠辞

を山田乃おどろかしみるごとりをとひこぶるふにがし実ろ孔

和の部

わをぶしやくふかあふふちくどだふ分のくきと記ハきりやりする

○コトワリナシ

○道理ガナイ

わゝけ

○衣ノ破レサガリタルヲ云歌、うつほ物語ニ、カタビラノワゝケタルヲ着テ」トアリ。此意ナリト畧解ニ云ヘリ。

わゞの世

○自分ノ生涯ニアリフルホドヲ云

わゞの世子

○夫ヲイフガモトニテ、古クハ、兄弟朋友ノウヘニモイヘリ。

わのえ

わのゆ

○ワカヤグナリ

万長 ぬのかゝるゝ夜はさろのごとやけさぶるかぐふのゝ月よおうけ上畧

夫 くれふかの神よまつわゝまこよりもあわぶつりのやけさぶ思ふ

拾 わゝ四の月のえとすつるぞふやゞ世のいとくふけゝるこれ

俳舟 かりのゆくのゝゆゝゑぞふねをそへてやゞうつきぬと考つさへよ

古 わゞせるぐゝ爪をさよひあうさゝかふのそてのふるまひかゆてあうしも

雅勅 夕やゝハるゝどゝ月やもてめれやうをふるのまふもえ安し

万 わきすふハとくるの國は住々ゝ考ゝ事やうえ海ゝそう

六 七月の九ゝこふまゝ所のやゝちゝ人のわうゆてつきく

赤深 いろゝのふかくるきくまをうけて五代よわゆゝゝち祈され

ほ 人こゝるゝるゝぶハ毛ぞめるゝゝるゝゝ多くぬ思ひのやうにちゝべ

ゐたゞ百千 おもてゝと有こゝるのさゝゝぶる湯のゆえゞ涙をやうゝ流ゝ

古夫 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝやゝゝゝの老の彩さくやようゝ彩ゝ上下畧

兼盛 やゝゝゝのゝゝゝれゝゝきゝ枯のゝ紙ゝゝつゝゝふゆゝふゝいゝゝ

夫 紗のをゝがあのゝゞやゝゝひいゝゝゝて岸つゝくゝゝゝりきゝゝ彩ゝ

彩臣 ゝゝくゝゝげゝゝゝみの浦ゝ十むあゝのやゝゝひゝゝハゝゝゝゝゝゝゝ

わのは

○為沸ナリ

わゝゝ

○公私ノ私(ワタクシ)ナリ

わらひ

○世ワタリナリ

わらひ草

○産業ヲ云、草ノ名ニアラズ。

わたり川

○三途川ナリ

われて

○前ノワリナシノ意ニ
粗同シ。ワレテモ末ニ
ノ御製ハ、ヒトモノ
意ト聞ユ。

われうち

○我故ナリ

○ワレカラト云ハ、藻ニ
ツキタルチヒサキ貝
ナリト云。又ワレカラ
(破殼)ノ義ト云説モアリ。

わく

湧ナリ

古 ちのかくぶ而くちちん わたり川あきさう的ぐうくうくうぐ
拾遺 わたり川ゆきづもとつくみて人をこすくうれよそひきん

ニ よくひのやうに出てゆくうくうぬ月のわれてあるりふくろう有のれ
新 そをあくと出るよせくくく洗川のわれてまよ河りんくうあるよ

古 延喜のうる屋よすむ虫のわれくくとねよ社あるこの恋せをばくくみじ
拾 思をあふくくみつくくび屋のかくりるまむ手くくの名をやされて
ロ ふ あやのかるるふ十年よやの名ハきけどくびわれくくのつくきろるり
伊勢 うくくくのかくくくの時ハあくぶ川名のまくくる社あちくはうくく洗

流れ拾 ちくを川出ちくくびわるのわきくくりてくぬれくくでう郭
拾 くくる人をあきを夏山の洗のくくハるのわくくそくくきくくりふ
新六 われかくくてわくくくの名のくくめぐり命をくくくもくくくくくん

古 わくくくぞふくくふ人あくぶ浦戸の浦よるもくくれくくわぶくくくよ
新古 わくくくばふくくくの川沿よるをくくくいくくくくくふふくくをすぐれ
新拾 くくくくづふくくくたのむくくまくくのくくくをふくくぬ名ぐれもぐふ
拾遺 ふのくくくくく年の老ハくくえをくくくわざくくくくくくぬあくくんくくをぐきく

わ

○蓮和名和久。糸ヲマク
具ナリ。始ノ歌ハ水ノ
涌クニ通ハセタリ。

わくらば

○タマサカ

○古今ノ歌ハ、遠鏡ニモ
シシゼント問テクレ
ル人モアッタラバト
譯セリ。

わざとも

○モトメテバナク

○此詞、歌ニハ少シ。

ワザ〻

○ワザ〻〻

○是モ文ニハアレド、歌ニハマレナリ。

ワザト

○業トナリ、職分ニノ意。

ワさ田

○俗ニワセ田ト云、早稲田ナリ。

ワきて

○トリワケテ

ワぎへ

○我家ヲ紛メタルナリ。

山家集

あるもすぐしをしばゐ〻ゆ〻しさあれわぎへは田の深るまゝにをを

万

わきもこがわざとつくれる秋田のうるゝそでのかつしくれとあぬる

ほ

うちつけしに君ぞ忘しき大和なるふるの山田のわさ田出ろく

新古

わさ〻ぎにあるきまろ民や山ろの山田なるまくゝるこゑむしん

ほ

いつとても月こそ秋ハ多けれをわきてをちのめづらしきかな

天

はの申をわきてけるや深つむいとゝかをの〻秋のすゝぎに

万

ぎるよれおゝきくゝるぐるゝゝ名をわぎへのうのさゝ沢てちるゝゆ

ガイノ約ギナリ

円

さゝろもゝゝろ五ぎへのうるよなく名ゐをゝ名つゝきおりひづまの子

わしれ山

○佛経ニ云靈鷲山ナリ。天竺摩竭陀國ニアリ。

続古

わしの山いろよすゝゝる月あれを入るゝちも世をてゝはらん

於五

鷲の山やゝのはるゝもちゝわるきゝりてのなるあるゝゝりされ

わび

○ナンギ

○ワビヌレバハ難義シハテタレバワビヒハナンギシハテニナリ。

古

わびぬれたゝしひてもチあんと思へども君しいふすのぞゝ人ゝるあるる

ワびしらに

○ワビシサウニ

○ワビシゲニ

○ナンギラシク

古

ゝびしらふはゝらなきゝそ兵庫の山のゝひあるゝゝやハあゝぬ

や

紅のふまゝそみたれをおつれバわびしらる社なしもふきゝるき

○早稲 和名和勢

万 をしめふりあひのわせをうゑけふやうゑそしをゑのをびさく

大 大伴田のをしのわせの初をすの秋の中ろふるそをふちう

伊物 つゝもたるきゝをこげへばわすれぐさあのがうくるそあかといふある

徒十 うきゝをのうゝめのわすれぐさいろうがゆるさるゝあけぬと

は おすゝをいりふすのかゝふるすれぞこすゝるゝの花ゝやあぬ

わすれ草

○萱草 和名和賀礼久佐。ワスルヽヿニ此名ヲカリテ歌ニヨメルナリ。故ニワスルヽ草トモイフ。

ワうくさの

ツマ

○若草ハ。メヅラシク。イツクシマルヽモノナレバ。若キ妻ニ云ヒカケタリ。

ワぶこひゐ

クラブノ山

冠辞の部

古 ちゝたるはけふハれやきそやうくきのつゆをるれう我をるれり

ち わがゐつよくゝぶの山のゝくゝふなかくちるゝゝうずいかをくゝど

○我恋ト散ル花ノカズトヲクラブト云ヒカケタリ。

わふつゝ代

フカキ

○ワタツミハ蒼海ナリ。ヨリテ深キト云ヒカケタリ。

万 ちゝくゝの浦きゝ生ちゝをぐゝくゝみらんあるまふさりくる

わぎもるゝ

アフチノ花

○アフチハ楝ナリ。妹ニアフトカケタリ。妹ハ恋フ所ノ女ナリ。

万 ゝくぎもゝのふあふちの花ふい花すぎぬいつもさゝくゝごとあゝこをぬか。

わぎもるが

スソ野

○妹ガ裾トカケシノミ

万 わぎゝゝのあゞすゝゝ世ゝゝ白ゝ花ゝ花ゝあハむすゞゞわゝゝゝびゝゝり

かいたれ時

○彼ハ誰ノ意ガレハタレト見ワカヲヌ暁方ヲイフナリ。

加の部

万 あゝゝきゝのかゝゝんけゝよゝゝ為ゝゝげをゝゝぎゝゝゝゝゝゝのたゞきゝゝゝぶゝ

モニ 里ちゝゝくゝゝぎゝゝのゝゝあゝゝゝきゝりかゝゝんけをなれゝゝゝゝん

うい

○鍬ハナリ。前ノカハニオナシ。川ト云フ言葉ニ通ハセタリ。

うぐま

○尸ナリ。死セル人ノカラヲ云。姓氏ヲモ亦カバネト云ヘリ。

かそうや

○瓦葺ノ屋ナリ

かそうけ

○苦竹和名加波多計。俗ニ「マダケ」ト云。

かたそひ

○川ソヒ道。河ソヒ柳ナド云ヘリ。川ニ附キ沿フ義ナリ。

かとうし

○蚊柱ナリ。蚊ノムラガリタツヲ云。

かとやしろ

○顕昭ノ説ニ。夏神楽ノ時ニ川ノ上ニ架構ナ神ヲ祭ル棚。

かふのく

○トニカクト云フニ同シ

かとやしろ

○川ソヒ道。河ソヒ柳ナド云ヘリ。川ニ附キ沿フ義ナリ。

かとうし

○蚊柱ナリ。蚊ノムラガリタツヲ云。

かとやしろ

○顕昭ノ説ニ。夏神楽ノ時ニ川ノ上ニ架構ナ神ヲ祭ル棚。

かふのく

○トニカクト云フニ同シ

かよいさくら

○宣長云、和名抄ニ、朱櫻仁波佐久良トアルハ、加ノ字ノ落タルニテ、加仁波櫻ナリ、今加波櫻ト云フハ、此仁ノ字ノハヅケタルナリ、

古 かりけども はのあるふかきくれて ゆくてごとふくしづむま

かふ

○ヤウニ、又云〳〵ノ為メ

古 梅をれちるくひくもれ老らくのちんといのるる道すがら

於 山さくふちるくんをごれちるきぬときこぶつげふくるがふ

かホな

○契沖云カホ花ハウツクシキ花ヲイヘリ、花ノ名ニアラズ、

万 そもどの神ぐのかわぞれおもふみふるこつこいよハわすれもつも

日 ろけまつのやまふちひくるかわらぶれもろう みやろうちうつくしれば

かほとり

○ウツクシキ鳥ヲ云、トリノ名ニアラズ、

六 うふるるのやちのくちづるるものれれるの根ちづき云ふもするられ

夫 あふ山ふるのしたゆ落ようるれるえかくれさしあるの恋さ

かへるさ

かへさ

○俗ニ云帰リガケナリ、帰ルサマナリトイヘドモ、サハ軽ク添ヘタルナリ、行クサ来サナドトモ云ヘリ、

かへす

○田ヲ返スナリ、耕ノ字ヲヨメリ、

かへすゝ

○クレ〴〵

○イクタビモ〳〵

かへし北風

○南ヨリ北ヘナド吹返

食 ちの〳〵ちのゆゆ〳〵そそもかくるさいちぶふくくすけふでかる

十 かつくるをいろうぶぬちぶのるちしばけどふ宮のぢいるてるし

はれ 山さくくんのちふるぶよきてかくるぶいしらし

ち 菜山田をけきかんしくても人のところまるるる社やらめ

壬二 厂のみるちの山田ハこうけちよかんちまう社ありひこう先

古 かくる衣ひちのふぐれふちうけふこうまくくぞ紅とハこひき

秋古 ちるくうのくくしハけくちあん山山田をあるちすくくもれれとるぐ

はれ 匂ひきくや郭のもハちづるちのこちのかくしの風ふつぐしハ

ス瓜ヲ云

かべ

○夢ノコヲイフ。多クハ壁ヲ兼テ詠メリ。「ヌルマ」「寐ル間」ニ見ル故壁トイフナラントノ考アリ。當時ノ讃言ナルベシ。

かへ(ち)

○十二月十九日ヨリ三日間佛名會行ハレシ。此時相撲ノ庄ト云処ヨリ酒ヲ奉ル。之ヲカヘナシトハ云ヒシ。宝亀五年ニ始リシトゾ。

かへりて

○却テナリ。帰リテヲ兼ヌルコトアリ。

○俗ニカドワカスト云。カスメ取ルト云ニ近シ。

かどり

○鎌和名加止利。ウスギヌヲ云。

かち

○歩行ナリ

かぢ

○楮ナリ。又穀桑(カウゾウ)トモ名ク。俗ニ云カヂウゾナリ。

かるゝ

○疎ク遠ザカルナリ。万葉ニ離ヲ「カル」トヨメリ。

かゝぐ

○カキアグ（卑巻）ナリ。キアノ約ハナリ。又裹衣ニ云）ヲモヨメリ。

かゞ京

○和名抄ニ、輝ヲアカヾリト訓ス。手足ノ坼裂セカヾルハアカヾルナリ。

かゞ京く

○和名抄ニ、嚇ヲヨメリ。鶯ノ声ハ我久〻〻ト聞ユルモノナレバ、カヾナクト云フト畧解ニ見エタリ。

かよふ

○通ヨロム。證歌ノ琴の

古 山里ハあれぞさびしさまさりける人目もくさもかれぬとおもへば

日 わが宿ハ人目も草もかれぬ秋ハ来ぬれど見るのみにして人ハかよふも

夫 秋ふかみ草のかれにしきあの大ろふるわらげるかゞみもくもん

侍 よきあぐきのうれしさ尖ぶかぐ人のふるかれき

乃 いわつけバかゞるあゞをとひもとのわくるあゞをとそあゞを

乃 つくるよかゞなくわーのねをのくろきわくるんはなあ

琴 のねる琴のねの風かろうしいろれのをうちくべあけむ

ねノカヨフハ行通フト似通フトヨカネ遠近ノカヨフハ行通フノ義ノミ。

え埴 きをとのゝもをバはの屋ろうれとかゝふハ花のいろこそみりくふ

かゝしさ

○衣ヲカタシクハ猶寝ヲ云。ワガ衣ノミシテバナリ。

かゝ

古 かさま

○笠蓑和名加太美ザゲ籠ナリ。神代紀ニ、無目籠マナシカタマ）トアリ。古今集ノ花カタミナドニ後人筐ノ字ヲアテタリ。

かゝ

○タガヒ互ニ同シ

は 天のゝや彼ぐふかゝをを引るゆ〻わゝるかゝみとつまんわゝるを

が わゝてゝゝぬノもちつゞゝ毛能のかゝみとつめるわゝれちゝを

百長 かゝ子もよゝかゝまるちゝろゝ〻のゝゝゝふゞゝもちゝ畧

は 変ゝきふかゝゝみよ神を毛をゝつゝ十毛の杉山陰ゝ毛ゝゝゝ

が わゝるおゝひ天ゝもちつゞゝるあ彼の衣ハかゝゝみよ風のかゝゞ多ゝむ

かゝ〻〻

○俗ニ形見トカヽ。遺物ナリ。

古 かゝゝゝこう今ハあゝゝれそゝゝゝ

・かいらふ

○カタル語ヲ延タルヽ。物語ブミナドニ、何ガシヲカタラヒテトアルハ、其者ヲ頼ムノ意ニ。

こうるゐ

○斤田舎ナリ。伊勢物語ニ、昔カタヰナカニ住ケリトアリ。片山里ナド云フニ同シ。

こうるゐざま

○嬰兒ノ井ザリアリク(膝行)サマヲ云。

こうこと

○小兒ノトヽノハヲ詞ヲカタ言ト云。今云フニ同シ。

これいひ

○乾飯(カレイヒ)ナリ。和名抄ニ餉ヲヨム。今俗ニ云「ベンタウ」ナリ。

かれぜ

○ウトヽクシカラズ

○ブサタセズ

うぞいろく

○和名抄ニ父ヲカヅ。母ヲイロハト讀ム。又カヅイロトモ云ヘリ。

うぞ々き

○カスカナル意ト聞ユ

かつ

○彼ト是ト交ヒ次ニ至ルヲアラハスコトバヽ。故ニ遠鏡ニ彼一方カ

ヲト訳シタリ。

かつ

○歌ニヨリテ「チヨツト」トモ訳スベシ。

かつぐ

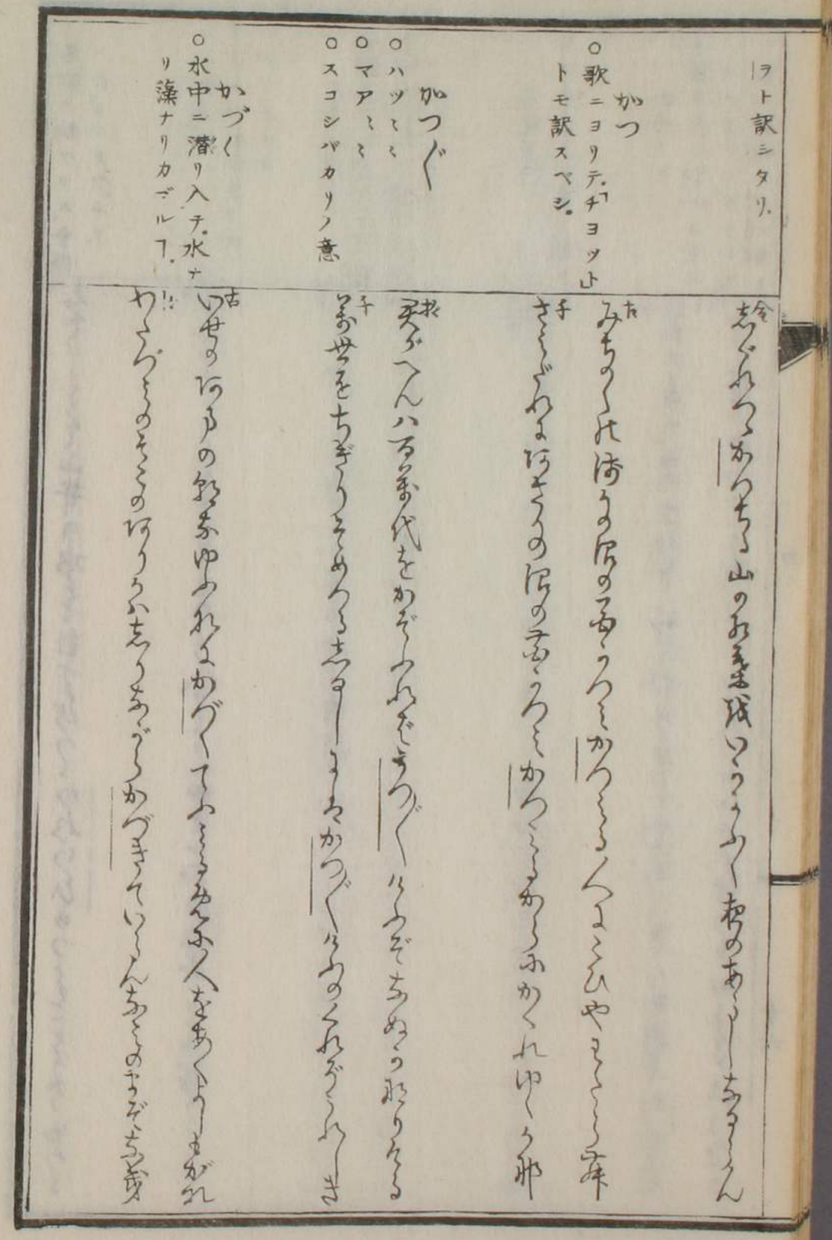
○ハツ〳〵

○マア〳〵

○スコシバカリノ意

かづく

○水中ニ潛リ入テ水ナリ藻ナリカゾルコト。



うつつなる

○文学ノ試業ニ及第スルコトニ云。晉ノ郤詵ガ故事。

うきて

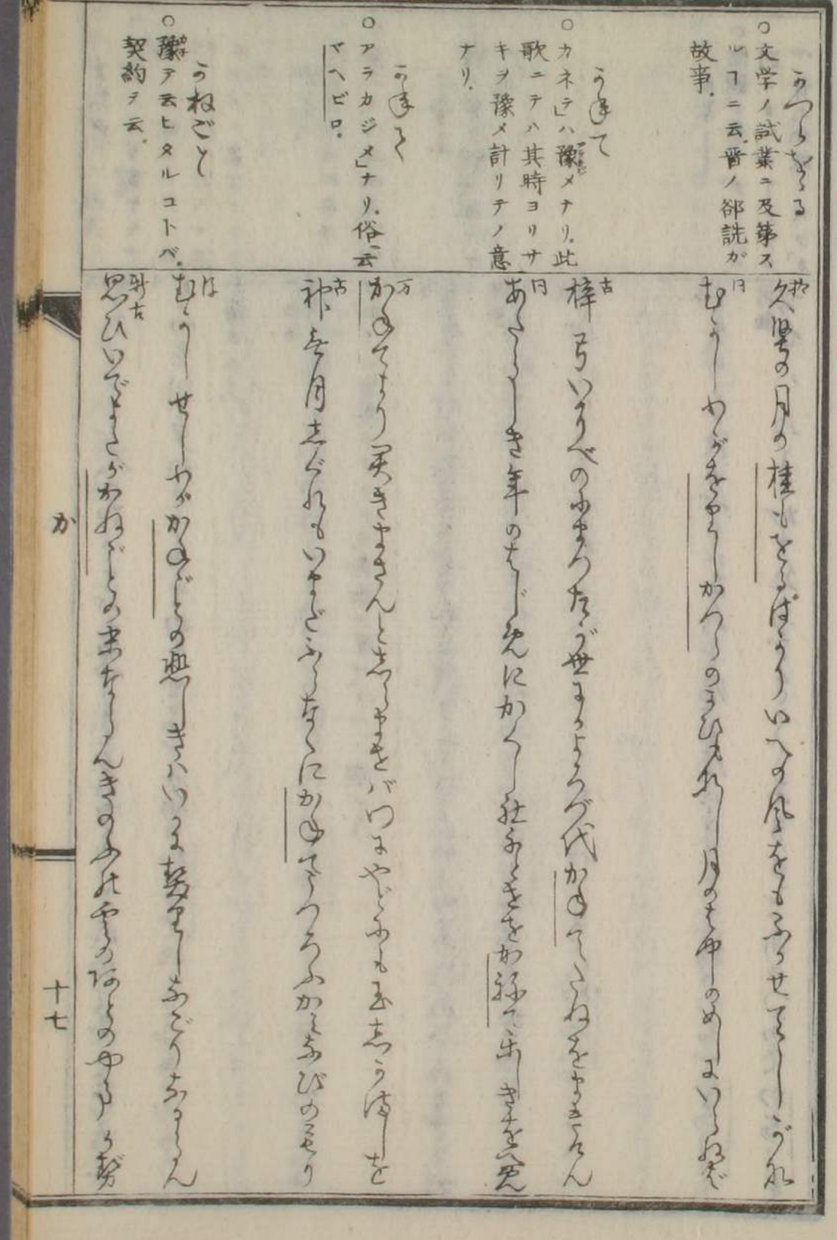
○カネテ「ハ豫メナリ。此歌ニテハ其時ヨリサキヲ豫メ計リテノ意ナリ。

うまく

○アラカジメナリ。俗ニ云ヘバビロ。

うねごと

○豫テ云ヒタルコトヘ。契約ヲ云。



ゐぶ戸

○カネノクギ貫キモテ堅ムル故カナ戸ト云。ヨ門ヲカドト云ヘルモ、カナドノ畧言ナリト千蔭云へり。

かるがるしく人の祝ふてゞあるもあれども物てゞあるふ

たつを川タわたくしきもわきもるが家のかまどにちゞきふろう

かるへ

○鼎和名阿之加奈倍。

○説文ニ、三足両耳、五味ヲ和スル器ナリトアリ。食物ヲ煮ル「ナベ」ノ類ナリ。

ゐの國のあまそわたつふつくろふ人はうまくくろ社こわう保

うなふ

○適ノ字ヲ訓ス。俗ニオナジ。

あきくるゞふ勇のるをんと月まてゞしかもかるひぬ人ふてぎそれ

わすれふてとおりあさく社見つゝかるらぬ多うかるはざうれ

わびしくいふきせゆみいそしとあるふとくかるはざうん

あふし

○憑歎ノ意ノ「カナシ」ハ、別ニカハル「ナケレバ省ク。此歌ニモ「カ

せゆはゐるもがもれあぎさくゞあるめをみのつまでかるしも

ナシ」ハ愛ル心ナリ。

から

○ヨリ直ナリ。今云カラニ同ジ。

ゆのあしのくさかくしてよゆゆふはまのちくゞやあくとうん

くゆくぎのふぎたよ風ふかくくもぬきび浪ふうせそう

からふ

○云々スルヤイナヤ。

○云々スルト共ニ。

吹かくふ杉の子毎のちをそればくゞ山をそ我あくしといつくん

すくのえの杉を杉くを吹かくふちをこちそふるわきつまて浪

からふや

○ユヱニヤ

○ニ因リテカ

焼ほせ

ふひくくとつ田かくるやうゆの屋も雪くをりぬべくれる

すろくんのうえくゞ田かくるやさよみて月のつるるもねいたくるくん

からし

○辛苦ナリ。俗ニ難義ト

おくてうや弦伸のくろやくゞ浪はかくくもわれいたくるるるゞ

云フ。

うの

○彼ノナリ。俗ニ云アノ
ニ同シ。

かめこまざら

○鹿ノ毛ノ班文ヲ云

かくろへ

○カクレ隠ヲ延ベタル
ナリ。ロヘノ約ルナリ。
万葉ニカクロヒトアリ。古言ハカクリトイヘバ。ロヒハリヲ延ベ

六 これ自りかくふあつるやかたでのかくしやくあいぬころふ

ほ かのくこにたやこきよををこをきくに返るあきくとくあくくん

おく かくく山くくくくやくそのよかのくゆゆくくゆゆさくくはくきてくくくやけ

伊物 時 くくぬ山ハふじのゆりくくてかのくさくくふゆきのふるくくん

おくえ くくぬの花をくく枝のほくくふかのくこ海ぐくに花くくぐわもなる

六 白妙のやこのふれくぐ少和をくくをのくくどくもかくくへふくをう

角 三笠山さくくくふかぐふくくくくくてふくあひふれきにをのくさくれ

おく さくくくくの紅くくをすくくをのくくまわくくくかくくへうみてくくくくくくら

タルナリ。中世プリノ歌ニロヒトヨムハワロシ。

かくろふ

○隠ルノルヲ延ベタル
ナリ。ロフノ約ルナリ。

伊物 きのふくくふやくくのたちくくひかくくくふハ花のちゆくくをくくくくくく

かぐち

○磐又ハ芳ノ義。万葉集ニ香細ト書ケリ。今俗ニ「カウバシ」ト云ヘリ。クハシハ食ルコトバナリ。花クハシ櫻ノメデナド、アリ。

万 かぐはしき花たちばなを玉ぬきあざむく妹はいとゞもあるかな

郁 ゆのうへをかぐはしみとぞ八千氏人ぐさもしたりける

うくれぬ

○隱沼ハ、草木ノ茂リオホヒテ、アラハニ見エヌ沼ヲ云ヘリ。

古 こもりぬのたるみはいづくかくれぬのたるかよひてこひしいもしも

かけて

○心ニカケテナリ。物ヲ掛テ、橋ヲ架テナドニ通ハス。

古 ひとしれずこもりぬのたるみてやまもるとゐうけてをりぬと知のまもあし

拾 あづまちのさのゝ永をしかりてゆくあるひわるをもるゝ人のふき

古 あをやぎの社のゆづさすき一日実をかるぬりつれし

かけて

○是ヨリ彼ヘカケテ、

伊 橋ぐそえまきのゝうくひすをうてまけどもすぎがきはうてて

伊物 秋ぐさけてひしもあるしもいろふ本ぬかりしえるをれ

かけ

○ロノ端ニカケテイヒト云フ暑言ナリ

古 そのをぶふるてやうあををきくれかけそ人のきくふ

日 秋のゆのねてふしをかけあくふ仏をしとひとれうるん

かけ

○鶏ヲ云。カケトハ鳴声ヨリシテ名ケシト云ヘリ。家鶏ノ音ト云フハ非ナリ。又伊勢物語ニクダカケトモ云ヘリ。百濯鶏ノ暑ナリト云フ説アリ。

万 あをとりのかけの尾のながなりをれをきてこゝろもあるえぬ・ゑ

夫 夜をふかみ寝ざめをしてかけはいとくねてさめてもあやすぐるき

かける

○翔ルナリ。鳥ノ飛ビ回ルヲ云。

万 雁うつり紅伸らぎくゝ妹ゞ為かさゝのくるゝるうぶかけるこゆ

明 秋ぎりの月毛の駒よわくるをかけんまのまくらん

かけご

○箱ノ巻子(カケゴ)ナリ。俗ニ懸子ト書ク。

かけ屋

○磯道(和名抄ニ磯辺路ト訓ス)

○山ノ懸崖上ニ沿ヒタル道ヲ云。

かふ

○水カヘハ水ヲノマシムルナリ。草ヲハマシムルモホカフト云共ニ牛馬ナドニツイテ云ナリ。枕草紙ニモ草ナドカハスルコソイトニクケレトアリ。

かこつ

○カコツケル。カヅケル。

ナドノ意託ノ字ヲヨム。

かごと

○假言ナリト云。カコツニ粗オナジ。

かこづけ

○カコツケガマシキナリ

かをばうり

○イヒワケバカリ。

○イサヽカバカリ。

かごめ

○酔籠ノ、香ト共ニノ意

かこふ

○園フナリ。俗ニオナジ。

かてゝ

○勝ヘカネテ

○コラヘ得ズニ

がて

○難ヨヨム、云々爲シ難サニナリ。故ニ此歌ニテハ、消ガタク過ガタシ。又消クレヌヤウニ、過ラレヌヤウニトモ

ゝ

ゝ

ゝ

手スサビノスサビニ
同シ中世以後ハモノ
フリタル意トセリ。

かしがま
○ヤカマシイ
○ガヤ〳〵ト
○囂喧ナドノ字ヲヨム

かしらの雪
○白髮ニナリタルヲ云。
頭ノ霜トモヨメリ。

かしぐ
○炊ヲヨム。米ヲムシテ
飯ニスルナリ。

かじき
蹭屐ナリ。俗ニカンジ
キト云。

かし
○戒柯和名加之。所以繫
舟。トアリ。舟ツナギノ
クヒナリ。今カシラツ
クトイフハ古言ノ殘リタルナリ。

かひこ
○卵ヲヨメリ。又蠶ヲモ
シカネヅク。養兒(カヒ
コ)ノ義ナルベシト士
清ハ云ヘリ。

かび
蚊遣火ヲ云。又楮塵ヲ
搗フヂキ假宿ニタク
火ヲモ云フメリ。

かず〳〵

○数々ヲヨム。多クノ歌ニヨリテハシンセツ何カ一ツケテナド訳シテ其意ヲ得ベシ。

かずうく

○行ク水ニカズカクトハセンナキタトヘイクラカキテモアトモトヾメヌ〳〵。

かちづあく

カミナビ川

○神南備川ハ大和平群郡ニアリ。蛙ノ名所ナレバカク冠ラセタリ。

かるうやの

ミダル

かずゝにわれをもみあぬゆるゝば山のかすゝをあつれとハ見よ

うずゝふめるひろびゝこゝ身をとるあふうぞさとれる

ゆれかずゝふゝきハやうなとろふる人をゝんしのさぞふ紀

けるふうずかゝようもをうるきふろめ人をあるふ山ふり笠

さかふりやさてるいゝあうけるふ数ゝきわゞるをゝのひろゆ

冠辞の部

かちづあくうゝるひ川よかゞゝえてつきやさてゝん山ふきの谷

かうやの乳母をあれどけりくも行

かゝるうやの乳母をあれどけりくも行

○荊蓋ハ刎ルヽ故ニカヽル

から衣

キナラノ里　タツ

ヒモ

○キナラハ衣着馴スト云フ意ニ通フ又「タツ」ハ裁ツ日ヲ立ツ日ニ「ヒモ」ハ紐ヲ日モニ通ハセ云カケタリ。

からふしき

タツ

○錦ヲ裁ツト云ヒカケタリ

かんうぜの

イセ

○神風ノ息ト云ベキヲイノ一語ニ云カケタリ

かげろふの

ツレカアラヌカ　岩

カキ潤

○万葉ニハ「カギロヒト」

から衣ゝるゝの里の時雨ゝ一つゝんゝきひゝゝがも

う〳〵衣ゝるひハ衣ゝ行ゝ春のあきゝゝゆゝゝけめゝきゝるを

かゝ衣ひゝゆゝゝれゝゝ時ハかゝるゝゝゝひゝゝゝゝ紀

あゝふゝゝゝゝ

○ヨメリ。又「イトユフ」トモ云(唐土ニコレヲ遊絲野馬ト名ヅク)春ノ空ニ糸ノ如クウラ〳〵ト見ユルモノナリ。故ニ春モユルホノカナド冠ラセタリ。岩垣フチヘ冠ラセメルハ。石タクナバ火ノ出ル故。カギロヒノ火ヨリ云カケタルナリ。

かミまつる
ウヅキ
○四月ハ神祭多キ月ナレバ冠ラセタリ

かしら木の
モリ
○柏木ノ森ヘ濡ハ同声ナレバカリ云カケタルナリ。

かしの実の
ヒトリ
○椎ノ実ナドハ取リテ結ブヲ。檀ノ実ハ只一ツヅヽナルモノ故。シカ冠ラセタリ。

よむふ
○喪ヲ延ベタルナリ。

與の部

よに
○世ノ中ニ決シテ
○ケツシテ

よぼろ
○丁ヲヨボロトヨム。今云フ人足ナリ。又仕丁ヲモシカ云ヘリ。

よゝもに
○世ト共ニ。後ニ夜ト共ニノ意トスルハ違ヘリ。

よど
○水ノヨドミタル所ナ

り。敷フヨム。

よどの

○夜殿ナリ。寢殿ヲ云ヘリ。

よどこ

○夜床ナリ。寢所ヲ云ヘリ。

よるく

○トキ〳〵ヲリ〳〵ヒナリ。古今ノ序ニ。片系ノヨリ〳〵絶ズヅ有ケルトアリ。

よるべ

○ヨスガニオナジ。依リ

たちつもりたる中にもとゞハ行るそらをなとやゞ多の心ちせしとなき

わく方のなくるきわきを見れハ男ゞとゞのに相うれさるゝや

ひけだ社のきれてつゆれるあやめをよるゞとゞのこゝろをとゞむらん

竹ちうくよゞゝゝゝ

よ

よぶのこす

○明ケテ後モ猶夜ノケシキ残ルナリ。

よるる

○弱シ。俗ニオナジ。

よゞれ

○夜離ナリ。離ハカルヽナリ。遠離ルヽナリ。疎遠ニナルナリ。人目カルトノ意ニオナジ。

よゝ

○男女ハナレ〴〵ニ世ヲ經ルヲ云。松ノ部ノおのゞよゝト合セ見ルベシ。

よゝ

○夜直ナリ。直ハ宿直ノ直ノ如ク。夜ヲ通シテノ意。夜ヒトヨ。夜通シト云フコトナリ。

よゝかひ

○威儀ヲツクロフコト。又ヨソフトモ云。俗ニ云フシタクスルナリ。

ようふ

○タクラベル

○タトヘル

よむ
○カゾフル「ナリ。今モ商人ナドハ。数ヲヨム」ト云ヘリ。

よ代つ神
○孝常ヲ訓ム。ヒトヽホリ。セケンナミ」ナリ。

よく
○ヨケル。又サケル」ナリ。ヨカナン」ハヨケテクレロノ意。

よこ雲
○夜明方ニ棚引ク雲ヲ

万 時ちかくちかれてみまくほしみぞとおもふいまはなぬかもあやし
古 君が代にこぎくらしもあまのはらふりさけみれば天の原ふりさけみれば
拾 春日なるみかさの山にいでしつきかもと人をあがもとめいでくるかも
万 ひさかたの月の中なるかつらをとりてをりかざしてあまくだりこし
拾 よのなかは何にたとへん朝ぼらけこぎいでしふねのあとの白なみ
古 住吉のきしによせくる浪ちかくやどりせしかな人をこふとて
拾 秋風にたなびく雲のたえまより洩れいでし月の光なりけり
新 かすがなる三笠の山にいでしつきかもとも人をあがもとめいでくるかも

よこしぐれ
○風ニ吹レテ横サマニ降ル時雨ヲ

よこぎる
○雲霞ナド横ニナビクヲ云。横ニワタルヲ。

よぎミち
○避路（ヨケミチ）ナリ。万葉ニ曲道ヲ訓ス。本道ヲヨケテ通ル路

よミ
○黄泉ナリ。神代紀ニ「ヨ

云フ

拾 秋風に吹まがへたる笹の葉のいろもまだらにぬれぬるかな
夫 旅の空かりねの夢のさめぬれば横しぐれ降ぬるかな
円 ふるさとの梅の花ぞ横しぐれ降ぬるかな
円 天の川よこぎりやたれぞこの夜たなばたつめ
夫 あの方の関のしまもりもいかがせんよこぎる旅の白しぐれ
万 雲隠れ
拾 雲隠れのがるるかたを人ぞとはばいかでかくれんよ紀伊の国
万 父母の
拾 ちはやぶる神の御代にはよこぎるひかりとぞ中略

ミノ國ヨモツ平坂ナド見ユ。スヨミヂトモフハ闇路ノ義ナリトゾ

よミがへる
○蘇ヲ訓スヨミヂガヘル。即チ生カヘルナリ。

よし
○ヨシ〳〵
○マヽヨ

よしや
○ゼヒモナイコトヂヤ

よしもし
○ナダテガナイ

古 わく〳〵ぞふつきてもこゝろあるべしよ〳〵がくてもてあるやうとこゝろ

古 萩のうへのみなぬくうんとやれだゝぬよう〳〵えん人は村ぶぐ〳〵よ

古 ぞ口すしてもとゝ多のもろもどいろいろんとこゝろ

古 吉野川よりやゝ人こゝをつゝうめこゝやいひてまこはやすふど

同 ふゝがれていりませの山のゆるあるよう〳〵せゝ川のようやせゝ平

古 はれぐ〳〵のあるあるよけるゝぐ川神のこゝひぢてあるよう〳〵なれ

同 非 生てゆく〳〵人をこゝめんようあきふとゝたりのかたこれ。ひぬうれ

よしもがれ
○チダテノアルヤウニシタイコトヂヤ

よも
○ヨモヤ

よも代海
○四海トカキテ。ヨモノウミトヨムベシ。夫木新六帖ナドニ。ヨツノウミトヨメルハ誤ル。

よもぎがしま
○蓬萊島ヲ云。唐土ニテ

古 いきのあくるの彩をゆのれよかぐてふるるめふ人をあくようこゝれ

同 愛しきのやもくようぬかゝゝ衣こゝろも愛びてあるようまぐれ

はれ かへるこゝをちんこゝよかくるぐ〳〵よるぐこゝてはやゝ一れの星

後古 つひのそきのふいろぬゝるまこゝはすとあるのぐこゝろふかゝこゝふ

全 雲の代のわく〳〵ふこゝよあく雲のつゝうこゝよのほこゝあるまぐこ

ト のもはあるぐ〳〵うぎこゝ山濱ひこゝ〳〵こゝきゝ武よ雲ぐこゝうこゝん

月ほ いく月の海ひこゝ〳〵くこゝあこゝこゝ海ひこゝてこゝ紀こゝ海のやどもあるハ〳〵

ハ之ヲ渤海ノ東ニアル三神山ノ一ナリト說ケリ。我国ニテハ或ハ摂津ノ住吉ナリト云ヒ或ハ富士山ヲ指シテ云フナド諸說マチ〳〵ニシテ一定シガタシ。

よもぎゲ杣　ヨモギ

○蓬ノ生茂リテ杣ノ如クナルヲ云。杣ハ山ノ林ノ。

よもすがら　ヨモスガラ

○終夜ナリ。ヨモスガラノ中ハ昼ニ對シテ夜ニモト云ヨシナレド、終夜ヲ「ヨモスガラ」トヨメルト常ナリ。又「夜ハスガラ」サヨスガラ」トモヨメリ。

よすがら

○前ニ同シ

よすず　ヨスズ

○明靈所ノ意。ダヨリニスル所ナリ。

ふるさとのよすがを契りてさとびわすれず杜ハすみうらう

多の部

たづこう　タヅコウ

○ハカリゴト

○イツハリ

たづしる　タヅシル

○タハ發語ハシルシ。

たはる　タハル

○戯レ狂フナリ

たとれめ
○遊女ヲ云、スヴカレメトモヨブ。

だふ
○サヘ
○デモ
○ナリトモ
○モ

たへ
○コラヘル

たへぬ
○コラヘラレヌ

ありひ（有明）　うゆすしやうとたりれめがナむ川とるふぐん玉づと
ゆのうくようあれてるるたりれめもあのむ人うきのそれぬうハ

ちるといくび枕だふせでわしものをあちこぬ名のそくよえそん
あけばせんあづねよゆえん山さくるそだうだよ人ゆあくふど（デモ）
うきあをばわれぶふいくくかいくあでそとぶあれ（ナリトモ）ん〜おるん

ちゅ〜ぐ〜くて世くるきむこひなんれとうきくるあくるれくどこうう
かく汁うきるたくてるるものをいうでむしをこ〜みひつん

ほひ出てうるとうのまを弦見ちう〜つきるよくぬいのちるを

たごろ
○闇夜ナリ。晴夜ニ燈火ナクシテ行キナヤムガ如キ意。

たぐ〜し
○タドリ〜シナリ。足下ノ分ラズシテ探リナガラ進ムノ意。

たちど
○立所ナリ

子　あるひうとびさてるうのちハるるるのをうきるたくぬハ間みうたう

た（ち）　ある（有）の川ふをるるこどうて海ちるるあをはるぐ〜ふるる
さめゆ（院政）〜であられるうとたどるまたさうれくあのくれるるぐ

たどりとひるるそををばるるで姉岩山るどくしくぞたれるるとし
夕やこふ道（あるぐ〜〜シ）てど〜〜月ちちてかくれるどるるのるるるるん

さ月（やよ）やるあの〜こやくふるるす穴ハ座のるちどのるるべれりるる
ろくるるこのれのたちどを弱ぞくるる川のべるるをんきう〜や

たちまち
○俗ニ同シ。

たちえ
○立枝ナリ

たはひ
○軒ナドニ垂ル氷ナリ。又ツラトモ云ヘリ。末摘ノツラトハツラキ辛苦ニカケテヨメリシ。

たをやめ
○手弱女ナリ。ワカキ女ヲ云。古キ詞ニハ「タワヤメ」ト云ヘリ。

たる
○撓ヲ訓ム。タワムと。

たゝる
○タワニ同シ。タワムナリ。トヲヽトモ云ヘリ。

たゞへす
○耕ヲ訓ム。田ヲ反スナリ。タガヤスト云フハナマリコトバと。

たより
○便ヲ訓ム。俗ニツイデト云ヒ。又タヨリトモ云ヘリ。

たゞ
○ソノマヽ
○カマハズニ

たゞに

○イタヅラニ。俗ニ云ムダニナリ。

たゞち

○直道ナリ。和名抄ニ徑路ヲ訓ズ。又直ノ字バカリモヨム。

たゝる

○祟ヲ訓ム。俗ニモ神ノタヽリナド云ヘリ。

たゞよふ

○漂ヲ訓ム。雲波船ナド。ドチラヘ行トモナク漂フヲ云。又人ノ身ノ上ニモ。世ニタヾヨフナド云ヘリ

たゞならぬ

○ヒト通リデハナイ。タヾデハナイ。事変リテ并ルノ意。

たれとふく

○誰トサシ定メズ

たつ

○立チ退クヽ立ツヲ截ニカケテヨメリ。

たづき

○手着ノ義。便リノ意ナリト云。ダツキモシラヌハ。紫内モ知ラヌナリ。

たつき

○和名抄ニ鐇ヲ訓ム。樵夫ノ用ヰル廣刃ノ斧ナリ。

たねうす

○種ヲマク前ニ水ニヒタシ置クコトナリ

たなもし

○板ニテ棚ノ様ニ仮リニ渡シタル橋ヲ云

たなば

○鞦ヲ遣フ手縄ナリ

夫 年毎ごとに 枝毎の花のさかりきよくつきの月のかつらの影ぞ

新六 うつしぶねたつきの斧のきをとわこそひきしれぬ世はつくられ

夫 枝ごとに むすびそめしを ひとすぢに たれ井よそ移さかりる

旧 むすびの男ごと母のせ苗しろまあきくてむすのまわをこねかつしん

古 かてといちぶねてもゆるみん志ひるゆく舟のあとそれ志のたれ民し

夫 いたづらふ月らぶやくる迄行の山のくるはしかけてらひて

夫 くるるの月のかつらの川風をやーたをふいぐる邪

たつた表

たむろ

○揉ヲ訓ム。直キ物ヲ曲ゲ、又ハ曲レル物ヲ伸ベスヲ云。但シ此歌ニテハ、揉ムルヲ溜ムルニカケテ云ヘリ。

たむる

○溜ムルナリ。物ヲ多ク集ムルヲ云。

たむけの神

○道祖神ヲ云。旅立ノ時ニ祭ルナリ。

たむけぐさ

○手向種ナリ。種ハ品ノ意。草ハ假字ナリ。

新六 ほそ枝 こまちのくはあぶちのきちをそをるひたあるまてこはかとらえん

夫 こまちのくはあぶちのきちをそをるひたあるまてこはかとらえん

順 たむるたるこの かつらはくるくるひすのあつまる神べのつみあたらり

夫 たむるたるこの かつらはくるくるひすのあつまる神べのつみあたらり

新六 あつてこをつかつ枝のあむけくさいつよまをそ神こつ

新勅 こくあ月ゆ浦をの枝のたむけくさ幾世うけきぬ法のまつゆ

たのむれかり

○又タノモノカリトモカク。田面ノ鳥ナリ。

ためめ

○タノミニサセル。人ヨリ我ヲ頼ニ思ハシムルナリ。

たぐ

○手繰ルナリ。万葉ニ栲縄ト書ルヲ見レバ。市モテヨレル縄カト或人云ヘレドイカヾアラン。

たく

○闌ヲ訓ム。日タク。春タクナド云。月日ノ彩又ハ時ナドノ。十分ニ移リスグレヲ云ヘリ。

たぐる

○ソヘル。

○ソハセヲヤル

○又類次第ヲモヨム。歌ニヨリテ訳シ方タガヘリ。

たやすし

○容易ナリ。タハヤスシトハノ字ヲソヘテモ云ヘリ。

たまさう

○俗ニ同シ

たまぐし

○大神宮式ニ、賢木ノ枝ニ木綿ツケタルヲ太玉串ト云トアリ。今祭ノ庭ニ白紙ヲ結付ケ用ヰルハ此畧ナリ。

たまかしは

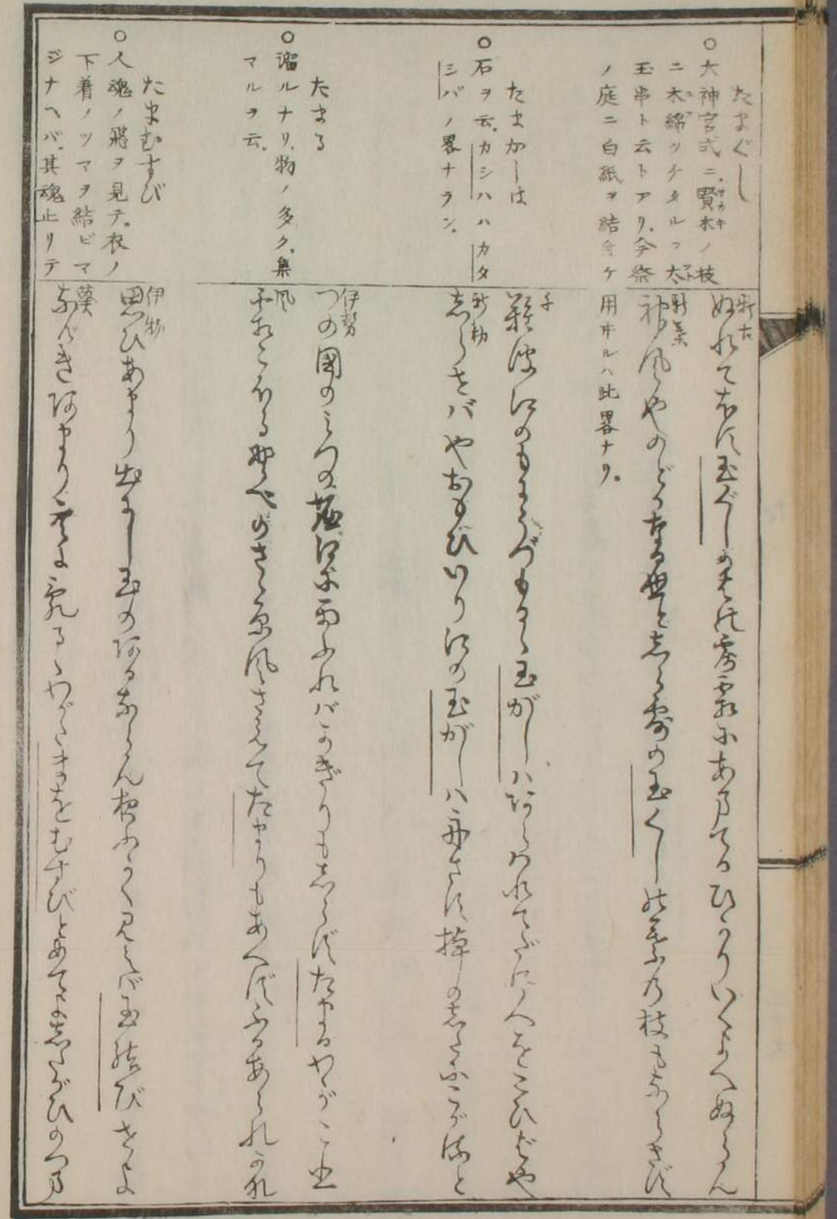
○石ヲ云。カシハハカタシバノ畧ナラン。

たまる

○溜ルナリ。物ノ多ク集マルヲ云。

たまむすび

○人魂ノ飛ヲ見テ、衣ノ下着ノツマヲ結ビマジナヘバ、其魂止リテ



モトノ主ニカヘリ死セズト云古キコトワザアリシナラン。

たけ

○人ノ長ヲ云。物語ノフミニ、タケ高クナド見ユ。俗ニ丈ノ字ヲカケリ。

たけのそのの

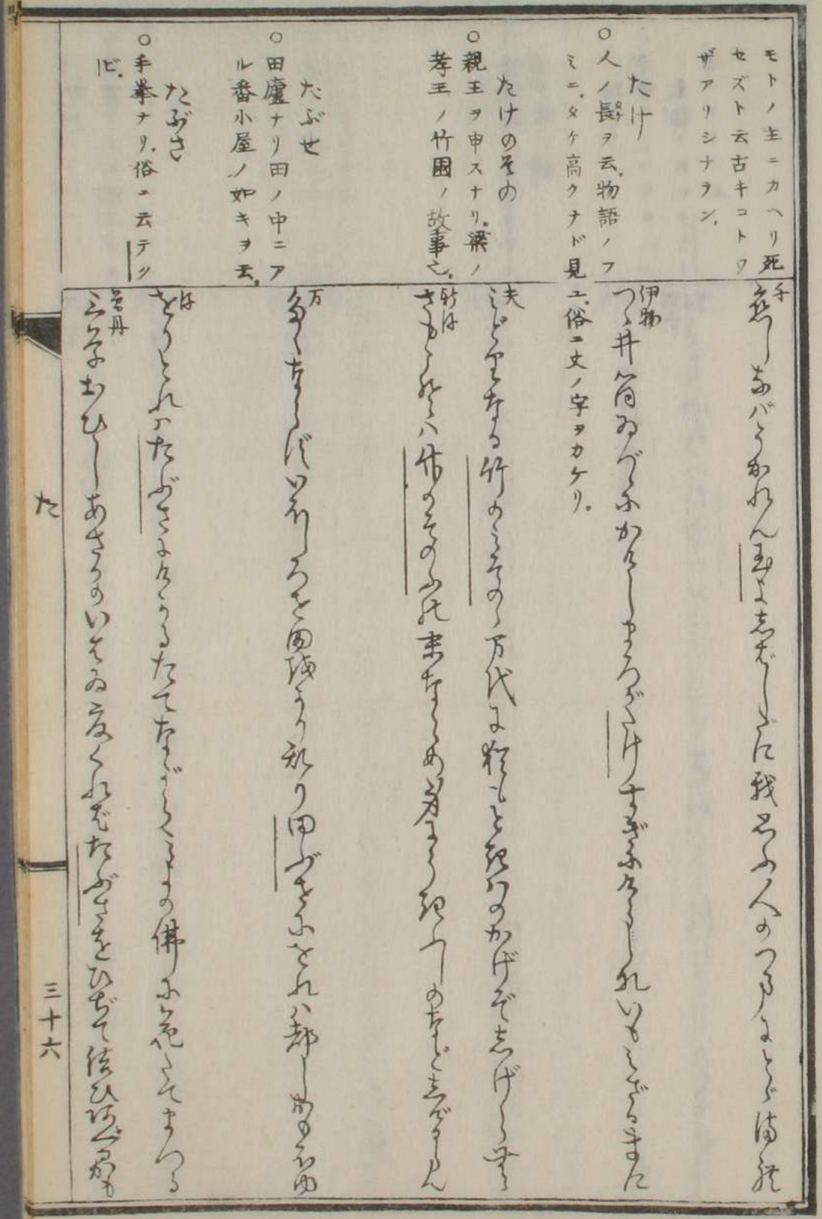
○親王ヲ申スナリ。梁ノ孝王ノ竹園ノ故事ニ。

たぶせ

○田廬ナリ。田ノ中ニアル番小屋ノ如キヲ云。

たぶさ

○手巻ナリ。俗ニ云テビ。



たご

○農業ヲスル賤夫ヲ云

たえて

○絶テ之、俗ニカイシキマルデナド云ヘリ。

たて

○楯也、敵ノ矢玉ヲ防グ板ノ類。

たぎる

○滾ギルナリ。ワキカヘルノ意、瀧ト云モタギリ落ルヨリノ名。

たぎつ

○前ノ意ト同シ。心ガワキカヘルナリ。

たゞく

○今俗ニ「ダル」ト云フ「ゝ」文章ニテハ「ウツタウシク」「ユキトゞカズ」ナドノ意ニ聞ユルモアリ。

たゆむ

○怠ルナリ。油断スルナリ。俗ニ「タルム」ト云ヘリ。並レ弛ムノ義ナルベシ。

たゞたひ

○ユタ〳〵スルヲ云。タヨロヒニ近シ。万葉ニ蹌踉不定ヲヨメリ。

たゞらふ
○タムル撞ト云コトバノ延ビタルニ。コヽニタメラフハ躊躇ノ意ニ。

ためし
○例ヲ訓ム。俗ニテホント云フ詞ニアタレリ。

だゞ
○散乱ノ訓ルヲ云

たじろく
○和訓栞ニ立退ノ義ナルベシ。リツノ反ロナリト云ヘリ。サモアルベク覚ユ。

たしろ
○俗ニ同シ

たひら
○平ヲ訓ム

たきつせの
ハヤキ
○瀧川ノ水ノハヤキヲ。心ノハヤリタルニ云ヨセタリ。

たらちねの
ハヽ
○赤子ヲ育ヒ日月ヲ足ラシメ。ヒトヽナスハ。母ノワザニ。因テ日足

冠辞の部

ラシ根ノ母ト云。此日ノ字ヲハブキ。シトケト通ハセ。根ト云フホメコトバヲ添ヘテ。タラチネト云ヘルナ。

たまくしげ
ミ フタ アケ オ
ホフ
玉櫛笥ナリ。ウツタシキクシバコヲ云ヘリ。カヽリソ意明ラケシ。

たまほこの
ミチ
○鋒ノ身ヨリ。道ノミノ声ニカヽリタルナリ。

たき木こは
カマクラ山
○新ヲ伐ル鎌トソバヘシノミ

そばだつる
○歌又側ヲヨム。高ク傾

万 玉くしげあけてのちこそ思ふべけれ
古 タつくよりあけてのちこそ思ふべけれ
夫 玉くしげあけてのちこそ思ふべけれ

万長 玉緒の道ゆきぶりにとりてかぐらん
新勅 さくらむちぶりにとりてかぐらん

万 栽こる庭の雪やまがうまでに
夫 栽こる庭の雪やまがうまでに

曽の部

夫 宮あけて山のそこゆまつのうちふ枕そばだつて月をみるこそ邪

ムクノ意。山ニソバタツト云ハ峙ヲヨム。高ク立ツノ意。

そばゝし
○カドミミシト云フガ如シ。稜角ノ多キヲナリ。嶮岨ヲソバト云と蕎麦ヲソバト云フモ。皆カドヽシケレバ。シカ名ヅケタルナリ。

そぼづ
○紫山子ノヲナリ。或説ニ山田ノ露ニヌレソボツヲ以テ名トスト云ヘリ。

そぼつ
○俗ニ云ビツショリヌルヽヲ

万 さめぬ夜の天ぬきうつの磯枕うちぶしたくぞぬるもよしなし
菊宴 うちぶしたくが行ふ山の椎ぐれ
古 ほゝ川の山田のそぼづうちぶしたくぞぬるもよしなし
夫 かりふ田ふくるうちかひもれ
月物名 ふくうむの雪
古 かぎりふくあり
ほ わびくのそぼつてふるうぶけ

そぼふる

○シメジ〻ト降ルヿ

そへる

○サウナラサウヨ

そり

○反ヲ訓ム。弓カナドノソリノ如キヲ云。

そり

○橇ヲ訓ム。北国ニテ雪中ニ乗リ走ラスル具ナリ。底ノ形ソリタル故ニシカ云ナラン。

そがひ

○万葉ニ背向トカケリ。

ウシロノ方ヲ云。

そよ

○ソレヨナリ。思ヒ出デ〻イヒ出スコトバ。又驚クコトバニモナルナリ。多クハ稲葉笹ナドノソヨ〻トナル音ニ云ヒカケタリ。

そよ〻

○ソレヨ〻ナリ。意前ニ同シ。此例ノ歌ニテハ葉ノ音ヲカネテヨメリ。

そよぐ

○葉ノソヨ〻ト動クナリ。戎ノ字ヲ訓ム。

そよ〻しそのを忘れて枯田にいるぞのそよ〻とうち人のゐるさ

わく〻き山かれのさ〻原ちりぬべしそよ〻をわすれやはする

さ月きりぬあひくるわくみ流のそよ〻わたりてこそぬりふ

風ふけばさ〻の枝葉のそよ〻とひあつきをうゝづちてあらん

きりふるれとさ多へとうゝ〻ゝうつるまた稲ぞそよぎて枯るぜのあく

萩のはもやゝちそよぐたちそよぐよのあとあうそよん

そよめく

○ソヨグノ意ニ同シ。メクハ形容ニシテ「ウゴメク」「ホノメク」ナドノメクニ同シ。

それゝ

○ソレデアラウカ。ソレデハアルマイカ。

そ

○ソレノレヲ畧シタリ。「ソヤダ」ニハ「ソレヨビ」ニ「ソナルラシ」ハ「ソレナルラシ」ナリ。

そゝぐ

○岩ツヽグ水。降ツヽグ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

フモ同シ。

そらおれ

○ソラハ虚ナリ。オボレハ老耄所ボケルと。俗ニソラトボケルト云語アリ。是ナリ。

そらめ

○ソレトタシカニ見留メヌナリ。今窒ニ見ルト云フ。

そらもふし

○ソラハサマニ近シ。音ニテ樣トモ云。俗ニモ常ニ云フコトナリ。

はてのそ〻をあくといひてはてのそ〻をあくといひてはてのそ〻をあくといひては

そこぢく

○若干ヲヨメリ。イクソバクニ同ジ。多キ意ナリ。

そこそこの

○ソコト定マルコトモナキナリ

そこひあき

○カギリモナキ之。海川ノ深キヲ云。ソコ并ト書クハワロシ。

そでつきけ衣

○官服ハ端袖ヲツクル故シカ云ヨシナレド。万葉ニユフハタノ袖着衣トアレバ。官服ニモ限ラヌニヤ。

そミかくだ

○奥儀抄ニ。修行者ヲ云フトアリ。和訓栞ニ。蘇夫民書札ノ儀。蘇民将来平孫繁昌ノ符トドヲ人ニ与ヘ門戸ニ掛シムルヲモテ。名トセルナルベシト云。

そこそこ

そこそこ

そこひあき

そでつきけ衣

雅言解巻二終